

桐生西ロータリークラブ週報

Rotary



2024-2025年度 RI テーマ ステファニー A. アーチックRI会長
「THE MAGIC OF ROTARY ロータリーのマジック」



ロータリーの
マジック

例会場・事務局 日本料理うおせん 桐生市広沢町1-2689

例会日時 毎週金曜日 12:30~13:30

Eメール kiryu-nishi@rid2840.jp

TEL 0277-47-7061

URL <http://www.rid2840.jp/kiryu-nishi>

FAX 0277-47-7062

会長 山同輝和 公共イメージ委員長 小林 聡 会報・ロータリーの友担当 新島健介

幹事 早川勇一 公共イメージ委員 金子福松、花房孝道、今泉攻一、栗原秀一(広報・CICO担当)

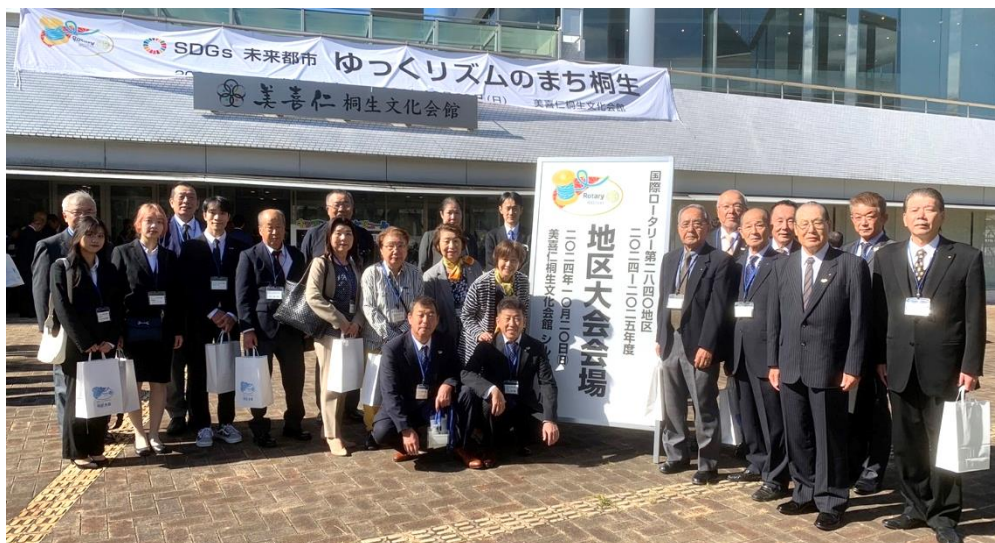
No. 2334

2024年11月1日発行

第2476例会 (2024・10・20) 報告

国際ロータリー第2040地区 2024-2025年度 地区大会

10月20日(日) 美喜仁桐生文化会館に於いて、RI第2840地区2024-2025年度の地区大会が開催されました。893名が参加し盛大な地区大会となりました。当クラブから会員24名、RAC5名が出席、集合写真撮影後会場に入りました。大会内での表彰で青山年度の実績から、荣誉ある『ロータリー賞』を今回も受賞いたしました。基調講演では、石原良純氏をお招きし「石原良純、大いに語る～日本の気象・環境問題から家族の絆まで～」をお話いただきました。



地区大会クラブアピール

本年度の会長方針

『みんなで楽しく 出席・親睦・奉仕しよう』
のもと、チームワークとパワーで奉仕活動を行う
世界で15000番目の『桐生西ロータリークラブ』

桐生西ロータリークラブ



第2477例会 (2024・10・25) 報告

1. 点 鐘
2. ロータリーソング (我等の生業)
3. 来訪者紹介
4. 会長報告
5. 幹事報告

6. 食 事
7. 委員会報告
8. 外部卓話 防災のあり方をUnlearn
～防災の当たり前を再考の再考～
9. 点 鐘

◆ビジター

群馬大学大学院理工学府教授 金井 昌信 様

◆会長報告

山同輝和会長

1. 10月19日(土) 桐生グランドホテルに於いて地区リーダーシップセミナーが開催され、早川幹事と出席してまいりました。
2. 10月20日(日) 美喜仁桐生文化会館に於いて地区大会が開催されました。出席された皆様大変お疲れさまでした。その中で、青山年度の実績により「ロータリー賞」を受賞したことをご報告いたします。
3. 10月18日に2025.26年度 理事役員候補受付のお知らせを発信させていただきました。立候補される方は受付期日10月30日(水)までとなります。よろしくお願いいたします。
4. 10月27日(日) R L I 研修セミナーPart IIが開催されます。山形エレクトが参加されます。

◆幹事報告

早川勇一幹事

◇例会変更のお知らせ

桐生 R C 11/4 (休)、11/11 桐生4RC合同夜間例会
11/18 (休)
桐生南 R C 10/30 (休)、11/6 → 11/11 桐生4RC合同
夜間例会、11/27 夜間例会
桐生赤城 R C 10/29 (休)、11/5 例会場変更
11/12 → 11/11 桐生 4 R C 合同夜間例会
11/26 イルミネーション設置
(わたらせ渓谷鉄道 水沼駅)
他 3 R C より

◇会 報

栃尾 R C 10/8、10/15、10/22

◇その他

- ・10/20「地区大会」に欠席された方、本日「地区大会の資料」をお渡ししております。
- ・森がバナー事務所より「令和6年9月能登半島豪雨災害支援金」のお願いが届いております。本日も募金箱を廻させていただきますので、ご協力の程お願い致します。
- ・森がバナー事務所より『歌と映画「しあわせの森」上映会』のチラシが届いております。

- ・(公財)ロータリー米山記念奨学会より「ハイライトよねやま vol.295」が届いております。
- ・本日、家住君より皆様へ『柿』のお土産をいただいております。お帰りの際にお持ち下さい。
- ・例会終了後「クラブ細則及び会員規定検討委員会」を開催致します。

本日のメニュー

- ・エビ天丼 香の物
- ・椀蕎麦
- ・鯖ときゅうりの和え物
- ・デザート
(家住さんちの柿)



家住慧路君
柿 美味しかったです
うおせん様
写真なしでごめんなさい
ご馳走様でした

委員会報告

●クラブ運営委員会

◇出席報告

城越敦子出席担当

- ・10/20例会「地区大会」
出席率対象者 50名 (全員登録)
出席率 100%

- ・本日の例会

会員総数 50名
出席率対象者 46名、対象出席者 36名
出席率 78.26%

●R財団・米山奨学委員会

◇ニコニコBOX

大屋昌太ニコニコBOX担当

金井先生 本日はよろしくお願い致します
金井先生 卓話楽しみにしています
金井昌信様 宜しくお願いします
金井様 卓話ありがとうございます

山同会長
早川幹事
前原君

高森君、近藤君、乾君、新井君
暑くて柿が小粒で出来が悪いです 家住君
明日、ゴルフ部の皆さま お気をつけてお越しください
浦野君
日米とも選挙結果が楽しみです 野田君

◇R財団

松島共由R財団担当

金井先生 卓話楽しみにしています
金井先生 本日は桐生西 R C へようこそ

山同会長
早川幹事

金井教授様 卓話楽しみです

江原君、高森君、乾君、野田君
芸術の秋です 美術館巡りを楽しんでいます 家住君
地区大会 お疲れ様でした 前原君、新井君
久しぶりにネクタイしました 近藤君
半期終了まであと2か月です
会員増強をお願い致します 浦野君

◇米山奨学

青山桃子米山奨学担当

金井先生 卓話よろしくお願ひします 山同会長
金井先生 本日は桐生西RCによろこ 早川幹事
金井様 卓話ありがとうございます
高森君、野田君、浦野君、新井君、大屋君
アメリカンリーグ ワールドシリーズ 楽しみです
近藤君
柿食えば… おいしかったです 家住君 江原君

●クールビズ期間終了

中里和子 S A A

長かったクールビズの期間も今日で最後です。
次回11/1の例会より、ネクタイ正装パッチをお忘れに
ならないようお願い致します。

外部卓話

●新井クラブ運営委員長より金井昌信様のご紹介

群馬大学大学院理工学府教授 金井 昌信 様のプロフィール
をご紹介させていただきます。

- ・1976年生まれ、群馬県桐生市出身
- ・2004年3月 群馬大学 大学院工学研究科 博士後期
課程修了、博士（工学）を取得
- ・2004年5月 群馬大学 工学部 助手
- ・2012年7月 群馬大学 大学院工学研究科 准教授
- ・2019年4月 群馬大学 大学院理工学府 教授
(現在に至る)

専門は災害社会工学。災害犠牲者ゼロを実現すること
を目的に、実践的な研究を行っています。具体的
には、地域住民が地域独自の緊急避難方法を策定する取
組や、小中学校における防災教育の支援を行ってい
らっしゃるそうです。

著書（2021.7）

ほんねぼうさいー防災を異次元からアップデートする
諸橋 和行・金井 昌信

防災のあり方をUnlearn

～防災の当たり前を再考の再考～

群馬大学大学院理工学府教授

金井 昌信 様



災害犠牲者ゼロの社会実現に向けて

自然災害の多発化、激甚化を受け、行政による防
災対策（公助）だけでなく、住民一人一人に適切な備
えと行動（自助）が求められている。この状況のなか
で、我々防災関係者は、全住民に対して異口同音に
「日頃から防災意識を高く持って、災害に備えよう」
というキャンペーンを行ってきた。これによって、

防災に興味・関心を持ち、具体的な備えを行うよう
になった住民がいることは間違いない。しかし、現状
において、多くの住民がちゃんと災害に備えていると認
識している人はいないのではないか。これまでの対策
の方向性（みんな、頑張ろう）は理想的かつ美しい政
策方針であり、多くの人が受け入れやすいものである
と言えよう。しかし、あと何年、同様のアプローチで
住民に働きかけたら、防災意識を高く持ち災害に備え
るようになるだろうか。悲観的な観測になるが、現在
備えることができていない人は、これまでと同じ方針
で対応していたのでは何も変わらないのではないだろ
うか。それらの人々が備えるようになるのは、自身が
被災したとき、すなわち「痛い目」を見たときとなっ
てしまうのではないか。

住民の防災行動を促進し、被害を軽減するため
には、これまでとは異なるアプローチも必要ではないか。
そこで紹介したいのが『Unlearn（アンラーン）』で
ある。『Unlearn（アンラーン）』とは、“これまで身
につけた思考のクセを取り除く”ことであり、“これま
でに学んだ知識や身につけた技術を振り返り、さらなる
学びや成長につながる形に整理し直すプロセス”の
ことである。防災においても、個々の住民の防災行
動を促進するために、これまで当たり前としてきた
「日頃から防災意識を高く持とう」という前提を一度
見直して、災害犠牲者ゼロの社会を実現するために、
個々の住民に求めるべき備えや考え方を再考してみる
必要があるのではないか。

そこで拙稿では、上記のような問題意識のもと著者が
実践している地域防災活動（地区防災計画の策定や講
演・研修など）において、地域住民に提案している
「日頃から防災意識を高く持とう」に変わる災害への
備えに対する考え方（姿勢、態度）を紹介したい。

“日頃から”の再考

まずは、“日頃から”防災意識を高く持つ必要がある
のかについて再考したい。

極端な例になるが、好天が数日続くとの予報がで
ている晴れた日に、風水害の心配をする必要はない。
風水害から命を守るためには、「台風が数日後にやっ
てくるという予報がでたとき」や「実際に雨が降り始
めたとき」、「避難情報がでたとき」にその状況や情
報に応じた適切な行動をとることができるかどうか
が重要となる。すなわち、日頃から意識することよりも
『そのとき、意識して行動する』ことが必要になる。

ここでリスクを回避するために『そのとき、意識
して行動する』ことが必要になるのは、防災だけでは
ない。例えば、我々が生活するうえで身近なリスクと
考えられる交通安全、防犯、防疫なども同様である。
自宅にいたときに車に注意する必要はないし、他者に
会わないのであればマスクをする必要もない。交通量
の多いところを通るときや人がたくさんいるところ
に行くときに注意して行動することができれば、リスク
は低減する。

一方で、交通安全、防災、防疫と防災には、大き
く異なる点がある。それは頻度と能動的か受動的か
という点である。交通安全、防災、防疫は、外出した際
に気をつけることが求められるので、ほぼ毎日気を付
けることになる。そのため、日頃から意識する、とい
う言い方でもそれほど違和感はない。さらにこれらの
リスクは、自ら気を付けるとき（外出するタイミン
グ）を選ぶことができる。一方で、防災は、その頻度
は毎日とは比べものにならないくらい低く、かつその
タイミングは受動的（自分で災害にあうタイミングは
決められない）である。そのため、相手（自然）から
押し付けられたタイミングで、「今がそのとき」と頭
のスイッチを切り替えて、行動できるかどうかが生
死を分けることにつながる。

もちろん、防災についても日頃から意識していることで、そのときに行動できる可能性が高まるかもしれない。しかし、日頃から意識することに限界があるのであれば、これに変わる実行可能かつ具体的な対策を考えるべきであろう。そこで、『頭のスイッチの入れ替え』を提案したい。すなわち、日頃から意識するのではなく、1年に1度でよいので、防災のこと、と言っても、あれこれ考えるのではなく、災害で死なない方法を考える日をつくることを提案する。具体的には、自宅に想定されている災害によって、自分を含めた家族が犠牲になるような状況を想定し、そのような状況になっても、犠牲にならないためには、どうしたらよいのかを具体的に考える。講演等では「年に1回、家族全員、災害で死んでみてください」と住民には訴えている。どのような状況になると想定される災害で犠牲になる可能性があるのかを考えることで、それを回避するための行動や場合によっては備えが具体化されると考え、このような提案をさせていただいている。

“防災意識”の再考

次に“防災意識”について再考したい。

なお、ここでは防災意識とはどんな意識であるのかについては、紙面の都合上、議論を割愛させていただく。読者には以下のような例をもとに防災意識について再考していただきたい。

近い将来巨大地震の発生が危惧されており、かつ河川が氾濫した場合には5メートル以上の浸水が想定されている地域がある。ここに昔ながらの商店街の中に再開発で新築マンションが増えている自治会に所属している二人の住民がいる。一人は、生まれも育ちもこの地域で、商店街組合の会長などをしていて、毎年地域の防災訓練の取り仕切りをしている人。もう一人は、結婚を機にこの地域に引っ越してきて、近所付き合いのわずらわしさを軽減するために戸建ではなくマンションを選択し、地域の防災訓練があることを知っても参加を躊躇している人。

一般的に防災意識が高いと言われるのはどちらだろうか？多くの人は前者と答えるであろう。では、地域に想定されている災害が発生した場合、生き延びる可能性が高いのはどちらだろうか？前者は個人でいろいろと防災対策をしているであろうが、地震が発生した場合、自宅が被災しなくても隣近所の家屋が倒壊したり火災になったりして被災する可能性がある。また水害の場合、自宅以外の安全な場所へ避難しないと被災する可能性がある。そのため、災害で死なない、という観点だけで言えば、地震でも水害でも自宅で何もしなくても生き残れる可能性が高い後者的の方が前者よりも生きのびる可能性が高いといえよう。

ここで指摘したいことは、意識しないと行動できない、という不安定な条件を前提とするのではなく、『災害に強い生活様式への転換』を促すことの必要性である。意識して備えるのではなく、普段の生活（無意識）の中で防災を日常化するような備え方を具体化することの方が、定型化された災害への備えよりも実行性が高くなるのではないか。命を守る備えとは言い難いが、ローリングストックやフェイズフリーなどは同じ方向性をもった考え方といえよう。

“高く持とう”の再考

最後に、防災意識を“高く持つ”必要があるのかについて再考したい。

例えば、以下のような問い合わせを受けたら、読者の皆さんは、どのように回答するだろうか。

耐震性の低い古い木造家屋に一人で暮らしている80代の年金暮らしの高齢者から、「自宅の耐震診断を受けた方がよいのか？」と相談を受けた。

地震が多発するわが国において、耐震補強、家具の固定などの自宅の安全性を高める備えは地震が命を守るために必要不可欠である。そのため、防災のことだけを考えれば、耐震診断を受けて必要な補強工事を行うべきである、という結論になる。しかし、80代の単身高齢者という属性を考えると、その自宅に居住している間に大きな地震が発生する可能性はどれほどあるだろうか。小さくない経済的負担を強いてまで耐震補強を行う必要は本当にあるのだろうか。この方にとって、もっと幸福なお金の使い方があるのではないだろうか。

防災上必要なことは必ずしなければならない、と正論を振りかざすことが、本当に人々の幸福に寄与するのかを、今一度見直してみるべきではないだろうか。著者は、『防災は「生き方」の一つ』と考えている。何にどこまで気を配って（注意して）生活するのかは、個人の経済力や何を大切にするのかに依存する。例えば、明日食べる物にも困っている人に、起こるかもしれない災害に備えて、投資せよと言っても、何の実効性もない。先ほどの例であれば、長くても10年くらいしかこの家に住まないだろうから、耐震補強はしない、という選択に合理性が全くないとは言い切れない。そこで必要になるのは、『覚悟』ではないだろうか。問題なのは、「知らずに（知ろうとせずに）、やっていない」ことであって、「わかっていて（知っていて）、覚悟をもって、ここまでは備える、ここから先に生じる被害は受け入れる」という考え方があってもよいのではないだろうか。

防災対策に唯一絶対の正解はない

災害リスクの程度、個人属性、地域属性等だけでなく、個人の考え方（覚悟の程度）によっても、正解となる防災対策は異なるはずである。一律に日頃から高い防災意識をもつことを求めるのではなく、最低限（死なない）を担保することを目指す対策の方向性があるのもよいのではないだろうか。なお、拙稿の提案も考え方の一つに過ぎないと自覚しているので、これが唯一絶対の正解であると勘違いしないようにご注意ください。

参考文献

- 1) 柳川範之・為末大、アンラーン人生100年時代の新しい「学び」、日経BP、2022。



<< 次例会予告 >>

11月8日(金) 点鐘12:30 うおせん

大間々高校インターアクト部合同例会

例会運営委員会 開催予定